



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第19巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	国民社会の研究各論 第3章 : 国家統治現象 『鈴木栄太郎著作集 7 (国民社会学原理ノート)』を出版した際のソースとなった原稿である (同書内での言及による)。
Issue Date	1962-05-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77582
Type	manuscript
File Information	I022_0119.pdf



19

NOTE BOOK

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP

國民社會の研究
第十九卷

29

昭和十八年六月七日

A
30
/
353



意匠登録
No. 151492



19

合衆化の前途と民主化の前途

題を述べる事は文化の前途には
中興なる下あるが。日本の文化は
成長には天皇制を改革する事を
さげかたゝる下あるか。天皇制の明
かに民主制に對立してゐる事は
明かである。

民主化は文化の前途に何故に必要
下あるか。

合衆化を必要とする文化の成長の推進
力を増すために文化の成長は文化の
合衆化を意味するといへる。科學
特に自然科學の成長が人類文化の成

長の権威力を失つてゐる。或は何人も新しい
相対性。その自然現象の成り立ちを自然の合
理的理解の成り立ちに外ならない。
元々新を以てて自然現象の成り立ち
おくれつゝのば社会現象の成り立ち
なり。社会現象の中に合理的理解を
はばかすの又は合理的理解を以て
いせよとのか念を以ていふことである
と云へないか。天竺の地はかくいふこと
のいつてある。日本人民は天竺の地
合理的理解を以てての成り立ちの成り
集まるも理解しきもの。成り立ちの成り
は危険を感ずる。成り立ちの成り立ち
2

を今我々に充分に理解しそれら
適切な措置を迅速にたけ小国たる
如くは日本国民の合理的理解の
前進も合理的措置の実行も故に
文化の成長も充分に期待され
得ないとなすかある。

最高に親に天皇一家を援助する
是故していよいよ最低の様に水
社を援助するの機構して、日本
国民の協力の合理的成長を助不
する困難である。合理的成長とな
限り文化的成長を意味する事は
ある。

二次の如き措置を合理的に算と考へ
るに必要なる際あるに於て

一、家族制を重なりし大規模家族型で
あるが、但し親も子も皆別々には同居して
ゐない。

一、子供は学舎に送ることも、口頭で管理に
お任せし、生活も同舎生の者が責任を負
つてゐる。

一、学校を終る者は職に就くか、或は
なく教師の職に就くか、決定する。

一、中級校に在るに高なる及び中下級校
に大學は大都會に設置するものとす。

一、学校はすべし口頭である。

一、養老院、病院はすべて口出しし又其
此等の規模に於ては各料家泊所を料給金可
可に要する。

一、最低賃金制、最低賃金制より共に最低賃金
制の制を設ける。最高賃金
最低の五倍止りにする。

一、国民は皆労働者身分意識を有し、経済的
又精神的な又は身体的な道徳的な拘束からの
解放、大半を以て合衆の民の心を導き、新
学や生活の道徳、有り余る生活環境の
内に生活する事を要する。

一、合理的な要求、その成るの爲に甚かの
道徳やヒューマンズからほしのひかりを

の勝に思ふに中々それをしてのぞくも我々の

合戦の力には矢張り必要なるの勝に思ふ

それゆへ人の合戦の勝に思ふに思ふ

人の合戦の人為の勝に思ふ

才一回お生と同様に思ふ(はたして形質に思ふ)

才二回思ふに思ふ(たゞ思ふ正の思ひに思ふ)

才三回思ふに思ふ(思ひに思ふに思ふ)

才四回思ふに思ふ(思ひに思ふ)

右の如き次第は思ふに思ふに思ふ

して漸進的に思ふに思ふに思ふ

あゝ。思ふに思ふに思ふに思ふ

思ふに思ふに思ふに思ふに思ふ

生えりて

様、積りてそのまゝついで、唯財の分配に

可成り大きな繋ぎをかけることである、

死後には下給死員の五倍の所得を

ゆゑに少くもに社員の後か及ぶこと

なると見ればなり、共済金は、改革の

亦やむを得ない、旧制は、此の

改革の必要は、いふまでもなく、その

改革の必要は、いふまでもなく、その

改革の必要は、いふまでもなく、その

改革の必要は、いふまでもなく、その

改革の必要は、いふまでもなく、その

改革の必要は、いふまでもなく、その

改革の必要は、いふまでもなく、その

ではあるか。一才に法律では人権は平等であ
るが、人権尊重は擁護したがる分
所あるは一元は護すの千倍の
へて、それこそ正名の措置といふ法律を
を所帯として、私権財産を擁護
す。為や法律であり、人権尊重
富者も擁護す。為の法律である。リ
めうしある。羊と虎を一つの檻
に入し、各自の自由を認めろとなさ
ず、この法を思ふ。羊は羊に
ては、虎は虎である。せめて檻の
はたかたう免は逃げ、望むは
のふりも残さず、今そのまの

法律は争の爲には余りに格闘を断る

てあり、虎の力には余り追いかけては勢

しなや必要を程を法律である。

親の法律は余のありの形で上位にある者

有利な地位にある者は必都令の

制の結果を案にしている法律である。

法律や制を正すべし、死のあとのま

の状態を正すは掛けとなつてい

からである。

私の考へては日本国民がなすべき

字の題絶をなす平和的な方策

として、配ルおけし最高所得の制限

の制を提唱し、口長であるおけし

最高ない最低の身分の絶^制滅
のためには身分令序に宗族親制
と云ふから然る生れは直子宗族親制
制への移轉の決意を提唱する。もし
最後に口民衆の令行的な態度
のみい人の人間的価値制を提
唱する。

統一政治制度の選挙における合理的な法

選挙は直接的選挙の中より、^中に於て行は

れる。集落地区が直接的選挙であるはその

集落地区から一人を相互選挙せしむるよ

う選挙。集落地区が直接的選挙より大

なる時は、^{選挙区}毎に一名を選出せし

む。誠実である人、又名譽や自利のみ

行知する人ではなく世の為人の爲につくす

素望ある人か選出せられ。

右の第一次の選挙からして選出された人

の中より、最多の地域⁺毎に次の標準

よつて一人を選出せしむ。経済制や文化に關

す。職能の高い者を選挙せ。それは各人

演説テストに立候補した人は
失格と見做す

の所定の発表を選挙委員の前で口頭で演
説せしむるものとする。

次にこの選挙に合格した人の十人毎に一人を

~~選挙~~

次にかくして選出せられ若し万人毎に次の

標準による一人を選出する。それは此

令の趣意に同ずる合理的な意見

の品なによつて選出され。政務演説に

よつて試験され。

選挙委員はすべて互選である。最次に選

けられた五十人^{上位}より主眼たる選挙せられ。そ

れが市会又は市報、大衆新聞などの名に

よつて行われ。市会が五十人の内より

在るの主義を任命する。
右の方式は統治をその末端より脱離す
る愚浅の手段にして口は死なぬの
自立的進歩を最良とせしめんと
す。才法である。

合理的協力方式としての文化

清とタイ、梨とフマン、金奈と智工

もほぼ合理的協力方式として同一の線

幾のしのである。協力の方式の文化とい

ては同一のものであるからである。

□ 民生生活における文化は何か

何かの知の方式に同ずるもの

である。生産に同ずる知の消費

に同ずる知、統治に同ずる知

に同ずる知、知の知、知に同ずる知

知、生産に同ずる知、協力の

に同ずる知、合理的協力の中に

同ずる知についての文化を

15

（そこにかかれようとするもの）

理解しうのないものは、文化人間をい
ふに付ければ、文化生活は不可能
であらう。

人間の文化には、そんな文化が記さない
諸人の一つの行動を断絶している。
口耳によるは、新陳代謝の文化を
有つてから、凡の口耳によるの文化
のみは、文化に在る。文化の一端が
どんなものであつても、文化は、
文化の一端の文化である。

かくの如く、文化は、文化の一端の文化
である。文化は、文化の一端の文化、

文化の一端の文化、文化の一端の文化、

1. What is the purpose of the experiment?
2. What are the variables?

文化、
文化、
娛樂、
教育、
文

796

結節的機關は採取の聲

結節的機關は常に採取の聲

であるが、今日の生活は交易の原則

の上に皆それ故に民生生活の維持

發展の為に必要なる社会的機能をも

つもので交易は経済の國任の上は

成りつゝいる。人の生活は何れも社会

生活に必要なる役割をもつてゐる。そ

の何れの一部分の活動が停止してし

てゐる生活の円滑な持続はあり得

ない。勿論である。その意味は何れ

の生活も皆社会の公僕として存在し

てゐる。皆に責任を負ふのである。

業としてその役割をたてふてゐる。

彼等は皆好まざる存在価値を

もちその生産物^品は対するの消費

にあっては民衆の市場で交易さ

れる。甲の生産品は八時までの需

佛も乙の生産品は八時までの需佛

も同様の所得をうけよるか否かは

ありづきである。

24に東京府民一人当りの年々

所得は十八万円余、金口の他都市に

おける府民の一人当りの所得は九万円

余である。東京の中でも最高所得

者十名は一億円以上である。

年々所得

所得におけることを相異はとこから

かこの所得はか。

その所得の種別によつて果し同
生業でもその地位によつて大なる
所得の別を有する。

所得供給の多寡によつて需要の
多寡は所得が大なり小なり異なる
所得が少くても然し最も需要の多
くその需要は所得が最も低い
のは何故か。最も需要の少ない
のは改良屋は所得が最も高い
のは何故か。

20 生業の類によつて所得の高下

か若へいれいのはる然である。少數の
和能優秀の者のみなり得るは
同じ然るあるは最も高い所得
の者然り若へいれあるは其不
足するれは生活をしていふ。其能
やスポーツの天分豊かたしのはそ
の相ある。所得を得ていふ。
よきなりは天分に尽した所得を
得ていふなり。人の卑しむる言であ
る。其苦難や崖壁や不衛生を犯し
行はれし生業は是れ又所得は
てあるなり。あるは其の難で
して、賤業種所得は低い。

一般に知能の低いものが賤業につき、高
い者が高雅な生業につくので、知能の
程度によつて所得も定まると見えます。

けれども、^{いふ}知能低くその地位
世を守る以外には役に立ち得ない
人が相対的に高い地位を占め、高い
所得をえつてゐる場合が多い。

その反対に知能は人一倍に聰明で
何をやにしても果て不到な人でも
僅かに米塩の資を得つて、又の人
は多量に得る。それは運と才とのけ
よるもので、色々の條件のせいの

分量の復令であらう。軍がそれと
決定して、世と見、事が出来る。

人は人の資本家が表面の積算
意に、割りと、ぬき、をよ、知、つ、い
る、す、し、つ、所得の大やな、とは、何、か
を、お、に、働、い、つ、と、ん、な、預、金、に、な、よ、も
の、か、ら、う、め、の、は、あ、た、り、ま、い、あ、る、
と、人、あ、た、り、ま、い、あ、る、と、い、う、よ、。

そんな、お、金、が、あ、ら、な、い、所得の高下
を、自、分、で、決、定、し、得、る、立、場、に、あ、あ
れ、は、人、は、誰、か、と、直、接、に、先、づ、自
己、に、有、利、な、所、得、を、得、る、標、本、固
式、を、考、へ、る、の、で、あ、ら、う、。

統一的機関の初はそんな所得
比率決定の度であつて、こゝに思ひ
あつたのである。

統治の最高の度には国民所得比率
の図式を決定する度である。
国民所得比率の図式の中で統治の
最高位者はその最高の度を自ら
に与へて正直なものである。国民
生活の後援である。

商業と工業者とサービス業と
皆所得比率決定の一役をもち
て居るものである。

24 与へらるゝものの比率に甘んじた

栗山漢民
けれどもなうなかつた人には長年労働民
と労働主であつた。それは結ぶ所の
の骨をえしいや夢の人であらう。

(附記) 人は最近まで自分自身について

この外又は自分自身を大事に
するを中へしてこの外考えて
来た。あゝ中は職業の人が自身
の職業を中心に物事を考へて来
た。統治について考へる人ありも
統治を職業とする。国家の生
業の右側を考へる人ある。う
はなかつた。人は皆勝る手に自分の

生業の有弊さも高まり、その弊を去るべく
来た。

人の生業の所得の比率の公平さを
奨励し、若くはじめた者一人一人は
本として明治末期の社会主義意識
であった。その故に労働運動の組織化
が活発化することと共にこの改訂版を
人間解放運動部について来た。こ
れは明治時代からそのまゝについて
来た。果ては統治体制に対する人間
解放の目的による脱皮政策である。
従来の生業の所得の比率は
生業の内では労働者の多量の

税採取税が多く同一生業にあ
いは然る節の上位にある。税採
取税に富んでゐる。故に然る節
の多い経済及び経済的模範の中
の最上位にある。税採の多きが
税採取を最も多くしてゐる。すに
なる。それは是れは政治の
最も高支配者と猶も資本の最高
の支配者である。その人達やその
直下の税下が集まる。ところが
首都である。首都人は一人
おりの所得が口で数倍の多い高
位である。すにその消費がそれ
生活

却り花やかであるのは当然である。
 是之には日本の超時空の文化が
 あつたり、其の頃の民衆の
 形が創り出され、金口、金口、
 いゝか、金口は東京より地方
 に二大別される。

九種の機國の力の優劣序列

この機國が最有力か、次などの機國

かの同じであらうか、これは異作能には

は民衆合において最終の決定力を有

すものは何かの同じであらうか。

激るの心は金と恋が最良の力である。

中するを替える。これは一人の人の

心の内で何れが有力であるかを同じ

としていふ。機國の力の優劣とは

他人の心から何を如何に受けとらうと

するれば同じでなく甲の機國に替

わすこの機國は甲を屈服す。

か、それか、その何れかである。

統治機関と経済の機関が接
す。場今何れか何れを明する
ものである。

統治は及ぶ。経済活動は抑
され。経済は及ぶ。統治活動は
明白に不可同に何れか。統治は
優位である。と認する。とある。

統治は及ぶ。経済活動は抑
され。統治は及ぶ。経済活動は
明白に不可同に何れか。統治は
優位である。と認する。とある。

経済は及ぶ。統治活動は抑
され。経済は及ぶ。統治活動は
明白に不可同に何れか。統治は
優位である。と認する。とある。

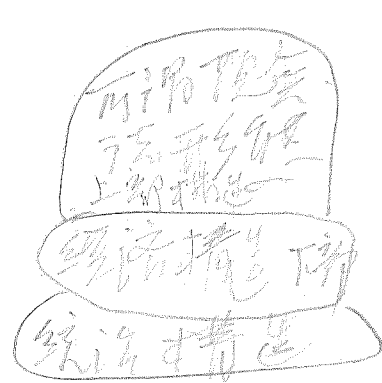
又、そのまゝを流すばかりでは、
と思はれる場合のあるのは、法文が
充分に整備されてゐないから、整理し
たものがあつたし、なつても、余り実案が
ない場合は、左のまゝに役所さんにお
き、^{新書}「新書」をトク小は、古くは新書
文を、作つておられる所、所す。文
の、自ら、力、有、経済、は、これ、
経済、法、^{経済}法、によつて、教育、によつて、世
を作、た、^{経済}法、たり、す、よ、り、によつて
現場、の上、に、抑、止、する、^{経済}法、の、実、案、を
も、^{経済}法、の、ま、を、^{経済}法、の、ま、を、^{経済}法、の、ま、
抑、止、し、得、る、^{経済}法、は、武、力、によつて

も抑制する実力と資金をいつても
口実の統治の方便に成ては万端で
あり十全である。故に統治の機関
が金力機関の上に支那してゐる
と云ふ可い。又、各所のアムニシ
ティは同じ重き下重積してゐるの
では無い。統治の中心としてゐるか
他のアムニシエーションを強力に支配
しながらその原則を破つてゐる。
その構想は、^{政治的な}政治的な表現とする
か型をなし、^{政治的な}政治的なアムニシエーションは
経済のアムニシエーションを下部構想とし
て、その下部構想を底にして上層

明治時代から野蠻な組織が
 日本に有る。口実構造がそれである。
 口実ほんの少しづつ、口実の政治の
 下に反省し、合理的な道へ来ん。
 今の口実が改組と改組の選定
 として統治者が選ばれる。口実
 かくさつ。口実。
 治は永久に必要である。統治が
 視と権威を伴はなくなつてから
 同の新しい合理的な手段が
 来るものと考えよう。それまで
 明治野蠻時代である。今は
 明治時代後期である。

33

明治時代から野蠻な組織が
 日本に有る。口実構造がそれである。
 口実ほんの少しづつ、口実の政治の
 下に反省し、合理的な道へ来ん。
 今の口実が改組と改組の選定
 として統治者が選ばれる。口実
 かくさつ。口実。
 治は永久に必要である。統治が
 視と権威を伴はなくなつてから
 同の新しい合理的な手段が
 来るものと考えよう。それまで
 明治野蠻時代である。今は
 明治時代後期である。



明治時代

都市内生業各種

食料生産流通業

衣料生産流通業

家屋建設修繕業土木工務業
家具食器製造業
廢物処理業

運輸通信業

治安維持処理業

教育産業業
娯楽業
文化芸術業

保健衛生医学

保健衛生医学

経済活動の中心は、都市内にある。都市内には、人口の集中、交通の便、情報の流通、サービスの提供など、経済活動に必要な要素が揃っている。都市内は、経済活動の中心地であり、都市内は、経済活動の中心地である。

都市内は、経済活動の中心地である。都市内には、人口の集中、交通の便、情報の流通、サービスの提供など、経済活動に必要な要素が揃っている。都市内は、経済活動の中心地であり、都市内は、経済活動の中心地である。

都市内は、経済活動の中心地である。都市内には、人口の集中、交通の便、情報の流通、サービスの提供など、経済活動に必要な要素が揃っている。都市内は、経済活動の中心地であり、都市内は、経済活動の中心地である。

都市内は、経済活動の中心地である。都市内には、人口の集中、交通の便、情報の流通、サービスの提供など、経済活動に必要な要素が揃っている。都市内は、経済活動の中心地であり、都市内は、経済活動の中心地である。

都市内は、経済活動の中心地である。都市内には、人口の集中、交通の便、情報の流通、サービスの提供など、経済活動に必要な要素が揃っている。都市内は、経済活動の中心地であり、都市内は、経済活動の中心地である。

都市内は、経済活動の中心地である。都市内には、人口の集中、交通の便、情報の流通、サービスの提供など、経済活動に必要な要素が揃っている。都市内は、経済活動の中心地であり、都市内は、経済活動の中心地である。

都市内は、経済活動の中心地である。都市内には、人口の集中、交通の便、情報の流通、サービスの提供など、経済活動に必要な要素が揃っている。都市内は、経済活動の中心地であり、都市内は、経済活動の中心地である。

都市内は、経済活動の中心地である。都市内には、人口の集中、交通の便、情報の流通、サービスの提供など、経済活動に必要な要素が揃っている。都市内は、経済活動の中心地であり、都市内は、経済活動の中心地である。

都市内は、経済活動の中心地である。都市内には、人口の集中、交通の便、情報の流通、サービスの提供など、経済活動に必要な要素が揃っている。都市内は、経済活動の中心地であり、都市内は、経済活動の中心地である。

て金と戦場を戦つた。今も世に傳へ
統治者業である。政治堂である。彼ら
様取の所である。

此方機械係と此方分業係と初期
の此方等の二大得業である。形式
此方等の流弊の所この二考續がある
形もなり得る。此方等の二考續がある
此方等の流弊の所この二考續がある
たのである。此方等の二考續がある
いふ。此方等の二考續がある
追及する。此方等の二考續がある
この二考續を感してゐる。

大正時代の私生活 各々が暮らしている。端々
冬移りも来しやうと。群が来る。物を大
にすましか。食の取つ、おし、高か
とる。さうして。時代の感。感の
見え。腹もな。このとき。新
感覚が。合。日本。民の生活。好
漫。因。感。に。お。し。か。る。

お。し。七。月。八。日。に。東。烟。精。一。番。が。都。の。新。聞
に。書。いた。『。東。洋。の。春。の。い。ま。』。の。
文。は。流。石。の。筆。で。現。在。の。日。本。の。都。市
生活。下。は。や。は。り。夏。季。を。修。で。道。路。
其。の。他。の。都。市。生活。も。都。市。民。の。生
活。環境。も。さ。う。さ。う。と。い。う。終。り。

